

令和3年7月15日

熊取町教育委員会 様

教育委員会評価委員会委員 大 野 廣 介
教育委員会評価委員会委員 岸 本 敬 仁

熊取町教育委員会活動の点検及び評価（令和2年度事業対象）
に対する意見書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、熊取町教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うにあたり、次のとおり意見を述べる。

意 見

熊取町教育委員会活動の点検・評価報告書の作成に際し、教育委員会事務局職員より聞き取りを行った。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校教育及び社会教育の両面にわたって多くの制約を受け、事業の中止や縮小に至るものもあったが、コロナ禍においても既存事業の実施に向けた創意工夫や新たな事務事業に取り組んでいることがうかがえる。

今後も、下記の点に留意し、創意工夫のもとに事務事業に取り組まれない。

記

- 1 コロナ禍による制約がある中で、教育委員会全体において試行錯誤しながら様々な取り組みを進められている。

成人式については、新型コロナウイルス感染症対策に最大限の取り組みを行い、事後の感染者数の増加もなく円滑に実施されたことについては評価できる。また、図書館においては、人気ジャンルの資料配架場所を移動させるなどの密にならない工夫や、学校教育分野の各事業においても、オンラインの活用や事業実施時期の調整等を適宜進め、事業を安易に中止することなく、可能な限り継続実施できていることについても評価できる。

今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、各種事業が実施できるよう努められたい。

- 2 学校でのICT活用について、GIGA端末が1人1台導入され、学校ICTの整備が進んでいることが理解できた。今後は、無線LAN環境のない家庭への対応や、デジタル教科書といったICT技術を活用した授業づくりを積極的に展開されたい。
- 3 公民館の整備計画や学校施設の長寿命化計画については、今後も計画的な施設整備に努められたい。特に公民館・町民会館（ホール）の整備については、町民・利用者の方々が利用しやすく、親しまれる施設の整備に取り組まれたい。
- 4 小中連携教科指導教員が中心となり、中学校区での連携が進められているということが理解できた。今後は、全ての校区で小中連携をより一層進められたい。
- 5 教職員の資質向上のための研修については、教職員の方々に是非受けて頂き、その成果を教育現場で十分発揮されたい。次代の管理職の担い手となる中堅教員を育てるための自主研修においても研修参加を促し、研修の機会を活用されるとともに、教職員全体の資質・能力の向上に努められたい。
- 6 きずなシート（個別の教育支援計画）については、保育所・幼稚園、小中連携のもと積極的な活用が図られているが、中学校から高校等への引き継ぎについても、引き続き学校同士や家庭などとの連携のもと、円滑に広く教育現場で活用されるよう努められたい。
- 7 就学援助については、見直しを検討する際、近隣市町の動向をしっかりと把握した上で、実施時期等にも十分留意するなど、町全体の総合的な判断のもと慎重に検討されたい。
- 8 給食牛乳については、令和3年度2学期から牛乳瓶から牛乳パックに変更されるにあたり、牛乳パックのリサイクルについて種々検討を重ねられてきたが、今後は、学校現場でスムーズにリサイクルが実施できるよう取り組まれたい。

なお、アレルギーのある子どもやエピペンを必要とする子どもが多いことから、牛乳パックのリサイクルへの取組みも含めたアレルギー対応については、今後も引き続き、きめ細やかな対応に努められたい。
- 9 図書館サービスについては、誰もが読書に親しめるよう、今後もアイデアを出しながら前向きに検討されたい。
- 10 くまとりゆうゆう大学の生活楽部について、教育委員会事務局以外での町全体の様々な部局が実施している事業があることが理解できた。今後も、さらなる事業の充実を望むものである。